

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービス事業そら篠路館

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和8 年

3 月

30 日

法人（事業所）理念		障がいのある方が地域の中で活動し生活することを目的として、利用者一人ひとりの自主性、主体性を尊重し、豊かな生活の広がりをめざしながら支援いたします。			
支援方針		「自己選択、自己決定」が表出できるよう、子供たちで考える場を設け、周囲との関わりを深める、表現力を高められるよう支援を提供します。豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにできるように支援を行います。また、公共の場を利用することでマナーや社会性を学ぶことへも力を入れていきます。			
営業時間		9 時 0 分から	17 時 30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	牛乳からはじまる「つくる」「味わう」体験を目的として、牛乳がどのように食卓に届くのかを体験的に学び、食材の変化を楽しみ、調理の達成感を味わう食育を行います。また、長期休みを使用して外出の機会を設け買い物や交通機関の利用方法などを学べるよう支援します。生活する上で必要な排泄すること、着替えること、入浴すること、季節に応じた着衣等本人の発達段階と生活環境を把握し、繰り返しの支援での本人ができる形での定着を図ります。			
	運動・感覚	ホールでは、ボール運動・リズム体操など身体を使う課題を提供し、基本的な運動能力・身体機能の向上を図ります。施設内の中庭を使用して、夏は水遊びやシャボン玉、冬は雪遊びなどを提供し、季節を感じる遊びへと繋がります。屋外活動として、散歩を行い近隣の公園へ行き季節を肌で感じることや公園の遊具を利用します。手指の巧緻性を高めるための工作・細かな操作課題を取り入れ、学習につながる姿勢保持や手の使い方の改善を図ります。			
	認知・行動	言語発達とコミュニケーション能力の習得を目的として、語彙を増やす言語訓練を行います。「できること」を起点に学習意欲を高め、課題に向かう姿勢を育てることを重視します。色や形・数字・物など様々な概念の理解を目指して、課題の提供を行います。認知、解釈しやすいように環境の整備を行い、ストレスなく過ごすことが出来るよう支援します。集団活動や創作活動にて、各感覚を刺激し興味の幅を広げることが出来るように支援します。			
	言語コミュニケーション	「自己選択、自己決定」が表出できるよう、子供たちで考える場「こども会議」を設け、周囲との関わりを深める、表現力を高められるよう支援を提供します。自分の気持ちを相手に言葉やジェスチャー等を使用して伝えられるよう支援を提供します。言語の発達に課題のあるお子様に対してはコミュニケーション手段（絵カード、視覚的サポート、ジェスチャーなど）の幅を広げ、自分の意思を表現できる環境づくりを行います。			
	人間関係社会性	日常生活や集団の中で必要となる対人スキルを育てることを目的に、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を実施します。挨拶、順番、断り方、お願いの仕方、気持ちの共有など、基本的な対人行動から段階的に学べるよう、年齢や発達段階に応じて活動内容を調整いたします。			
家族支援		連絡ノート、送迎時の会話などで随時情報共有をするとともに、必要に応じて面談や、電話連絡等で、不安や困りごとへの相談援助を行います。また、保護者参加型の行事にて交流の機会を設けます。		移行支援	学校や他事業所・関連機関との情報交換及び情報提供を行い、包括的に支援を行える環境を作り、支援します。
地域支援・地域連携		夏祭りでは地域との関わりを大事にしています。篠路コミュニティーセンターの利用を定期的に行い地域との繋がりを大事にします。		職員の質の向上	●毎月の事業所会議実施●虐待防止・身体拘束適正化研修の実施 ●内部研修の参加●毎朝ミーティングを行い、情報共有を行う
主な行事等		●施設行事として夏に夏祭り、冬にクリスマス会の実施 ●誕生日会 ●祝日、長期休暇中の所外活動 ●季節ごとのイベント			